

報告文献別一覧表(平成17年4月1日～平成17年8月31日)

番号	感染症	出典	概要
1	A型肝炎	HPS Weekly Report, Vol.39 (2005/05) 34-35 (2005)	英国において2004年にA型肝炎が34件報告され2003年の報告数より23%減少していたことが述べられている。
2	A型肝炎	CDRWeekly, Vol. 15 No. 16 (2005)	英国において、2004年第4四半期は、HPAのCommunicable Disease Surveillance Centre (CDSC)にA型肝炎の検査報告が109例とされており、2003年の第4四半期よりも46%少ないことなど掲載。
3	A型肝炎	Communicable Public health. Vol.7 No.4, 289-293 (2004)	英国のSouth YorkshireにおけるA型肝炎例の増加の大部分は静脈薬物を使用している若い男性であった。地域密着型の予防接種プログラム、地区の刑務所での4週間にわたる予防接種キャンペーンなどの結果、A型肝炎の増加は終息。
4	A型肝炎	Communicable Public health. Vol.7 No.4, 362-384 (2004)	A型肝炎, カンピロバクター感染症, コレラ, クリプトスポリジウム症, 大腸菌感染症, ジアルジア症, サルモネラ感染症, チフス, パラチフスなどに関する英国のガイドラインが記載されている。
5	A型肝炎	http://www.aabb.org/Pressroom/In_the_News/new12-17.htm	血液採取施設に対し、共通感染源によることが知られているまたは疑われているA型肝炎(HAV)感染のアウトブレイクに関連しているドナーおよび血液製品の管理についての情報が提供される。HAVへ最後に暴露された可能性のある日から120日間、献血は延期しなければならない
6	A型肝炎	http://www.phac-aspc.gc.ca/bid-bmi/dsd-dsm/nb-ab/2005/nb2605_e.html	2カ所のレストランの食品取扱者におけるA型肝炎陽性症例について通知を受け、A型肝炎12例が確認され、予防措置として保健当局はこのレストランの全ての従業員に予防接種を実施したことなどが記載されている。
7	A型肝炎	Kaliningrad国営ラジオ・テレビオンライン版, 2005年1月12日	2005年1月初旬以降, Kaliningrad地域Sovetsk市において(成人・小児合わせて)約30名が, A型肝炎に罹患した。大部分の感染者は, 汚染された野菜やフルーツを摂取。
8	A型肝炎	MMWR, Vol. 54 No.18, 453-456(2005)	IgM型HAV抗体陽性で最近の肝炎の徴候または症状のない一部の人々については、最近の急性感染症後の持続検査陽性という理由が考えられる。3つの調査においてHAV抗体陽性の大部分の人々は感染症の特定のリスクのない高齢者であり、再検査を行った大部分はIgM型HAV抗体陰性。他者への感染伝播は報告されていない。よって肝炎特有の症状のない高齢者におけるIgM型HAV抗体陽性は、偽陽性結果または数ヶ月から数年前に発症したHAV感染症の結果である可能性が高いことが示唆
9	A型肝炎	Pro Med2004/12/27	ムルマンスク地域のApatit市民130名がA型現時点で肝炎と診断されている。患者数は日に日に増加し、疫学者らは、上水道が感染源であると示唆している。
10	A型肝炎	ProMed, 2005/3/28	Hyderabad (Andhra Pradesh州)でのA型およびE型肝炎流行。2005年3月第4週に渡り、患者100名以上が旧市街の狭い地区1区のみから報告された。患者はA型およびE型肝炎と診断されている。政府は、新規患者数は減少し始めたとしている。
11	A型肝炎	ProMed, 2005年6月18日	ロシア南西部Tver地域におけるウイルス性A型肝炎患者数は小児177名を含む642名に増加。A型肝炎患者と接触のあった小児2000名を含む3000名以上がA型肝炎ワクチン予防接種を受けた。
12	A型肝炎	ProMed, 2005年6月22日	Tver 地域南西地区でのA型肝炎患者数が、小児182名を含む662名に達した。モスクワ市の衛生疫学局は、2005年5月までの期間に、小児164名を含む1130名が肝炎に罹患したと発表している。
13	A型肝炎	ProMed, 2005年6月9日	2004年8月～9月に、Hurghadaのリゾート地のあるホテルに滞在した旅行者の間で大規模なA型肝炎の流行があった。オーストリア、スウェーデン、デンマーク等から患者が報告された。感染源として、朝食のビュッフェで出されたグレープフルーツジュースが疑われた事など。

番号	感染症	出典	概要
14	A型肝炎	Transfusion 2004;44(11):1555-61	供血後にA型肝炎を発症した供血者血液の輸血によりHAVが伝播した。
15	B型肝炎	CDRWeekly, Vol. 15 No. 4 (2005) 2005年1月27日	2004年第3四半期は、HPAのCommunicable Disease Surveillance Centre (CDSC)に急性B型肝炎感染計94例が報告されたこと、2004年7月～9月の年齢別および性別の症例数を記載。
16	B型肝炎	CDRWeekly, Vol. 15 No. 16 (2005)	2004年第4四半期は、急性B型肝炎感染の検査報告計40件が報告されたこと、2004年10月～12月の年齢別および性別、暴露カテゴリー別の症例数を記載。
17	B型肝炎	Clin Lab 2004;50:49-51	HBs抗原(HBsAg)の変異株が、特定の市販されているイムノアッセイ・キットを用いても検出されない可能性がある。
18	B型肝炎	Eurosurveillance ;10(11)2005 年3月17日	ベルギーとアメリカの老人ホームで採血器具の不適切な使用によりHBV感染が集団発生した。
19	B型肝炎	Hepatology 2004;40(5):1072-7	カナダの都市部で血液透析を受けている成人患者のoccultHBV(B型肝炎表面高原陰性)、HBV-DNA陽性)保有率は3.8%(241名中9名)であり、ほとんどがウイルス量は低く、sG145R変異体の保有率が高かった。
20	B型肝炎	http://www.phac-aspc.gc.ca/bid-bmi/dsd-dsm/nb-ab/2005/nb1105_e.html	血糖管理に関連したB型肝炎ウイルス感染のアウトブレイクによりCDCおよびFDAは1990年以降、指先穿刺用具の個人使用の制限を推奨してきた。最近、長期療養型施設居住者における血糖管理用医療用具の共用などによりHBV感染のアウトブレイク3件が発生した。
21	B型肝炎	J of General Virology 2005; 86: 595-9	本邦の献血者において、遺伝子型がHのHBV事例が初めて発見され、現行のNATスクリーニングで検出された。
22	B型肝炎	Public Health Agency of Canada, 2005/3/22	ベルギーのFlandersにある老人養護施設2カ所において、糖尿病患者におけるfingerstick(血液採取用具)の複数回使用に関連した、急性B型肝炎感染症症例4例が最近発見されたこと、米国では、血糖値管理中の不十分な感染管理方法に関連した長期療養型施設の高令居住者におけるB型肝炎のアウトブレイク3件が最近報告されていること、英国の長期療養型施設における最近のB型肝炎のアウトブレイクは現在調査中であるが、伝播様式はいまだに不明であることなどが記載されている。
23	B型肝炎 C型肝炎	Communicable Public health. Vol.7 No.4, 301- 305(2004)	違法薬物使用歴、過去の静脈注射使用歴とB型肝炎、C型肝炎、HIV感染対策。
24	B型肝炎 C型肝炎	J of Medical Virology 2004;74(2):216-20	イタリアの急性HBV感染の約15%、急性HVC感染の約11.5%はビューティートリートメント(理容室の髭剃りや刺青等)による感染である。
25	C型肝炎	CDR Weekly, Vol. 15 No.5 (2005)	CFIにより調整された、第2期C型肝炎の再調査が完了した。2003年の最初の調査において、C型肝炎感染医療従事者(HCW)によりリスクの高い暴露の手技(EPP)が実施された500名の女性が調査され、調査に含まれなかった患者1例がC型肝炎と判明。
26	C型肝炎	CDRWeekly, Vol. 15 No.4 (2005) 2005年1月27日	2004年第3四半期はHPAのCommunicable Disease Surveillance Centre (CDSC)にC型肝炎感染計1921例が報告されたこと、2004年4月～6月の年齢別および性別の症例数を記載。
27	C型肝炎	CDRWeekly, Vol. 15 No. 16 (2005)	2004年第4四半期は、C型肝炎感染計1288例が報告されたこと、2004年10月～12月の年齢別および性別の症例数を記載。
28	C型肝炎	CDRWeekly, Vol. 15 No. 16 (2005)	Health Protection Agency Centre for infection)によって行われるC型肝炎複合週及調査活動において、2004年ロンドン病院の産婦人科で治療を受けた患者にC型肝炎ウイルス感染が確認され、この患者と患者を看護した医療従事者に遺伝子型が同一のウイルスが確認された。

番号	感染症	出典	概要
29	C型肝炎	Evening Times、2005年4月19日	ある産婦人科の外科医が最近C型肝炎であることが判明した。これに伴い、過去23年間にこの医師の治療を受けた患者にリスクがあることが通知され、女性1例が既にC型肝炎検査陽性であったことなどについて記載されている。
30	C型肝炎	Hepatology 2005;41(1):115-22	HCVの感染は肝疾患病棟、特に長期間の入院を要する患者において、患者から患者のルートで発生しているようである。
31	C型肝炎	http://www.phac-aspcgc.ca/bid-bmi/dsd-dsm/nb-ab/2005/nb2505_e.html	本報告ではC型肝炎感染の背景の提供、針およびシリンジに対する消毒としての漂白の使用に関する概要を記載。B型肝炎およびHIV感染予防における漂白の有効性の比較などについて記載されている。報告書はウェブサイトで閲覧できる。
32	C型肝炎	J of Medical Virology 2005; 75(3): 399-401	英国において、麻酔の手順上、感染のおそれがない状況下で麻酔科医から患者にHCVが伝播した最初の報告である。このことから、輸血後HCV感染症の調査には、院内感染など輸血以外の伝播ルートについて考慮する必要がある。
33	C型肝炎	Pro Med.2005/1/5	当局は、C型肝炎で死亡した患者の感染源を、負荷試験や他の通常の診断検査時に血液中に注射される放射線同位元素テクネチウム99m(99mTc)の注射が感染源であったと追跡した。
34	C型肝炎	英国保健省 Publications and statistics, 2004/0426、2004年12月8日	C型肝炎についての新たな公衆衛生キャンペーンが今後2年間にわたり、C型肝炎の知識を増加し、ウイルスの伝播様式、感染症回避するための啓蒙が行なわれる予定。英国では約20万人が慢性感染だが、多くは感染に気がついていないこと、症例の約55%が治療に対して反応するため、リスクが高い患者は検査を受けることが重要であることなどが記載されている。
35	C型肝炎	臨床血液 2004; 45(8): 280 PS-1-247.	HCV-RNA検査陰性であった血液製剤の輸血によってHCV感染が疑われる症例が報告された。
36	E型肝炎	IDWR感染症週報2004年第47週	E型肝炎の感染経路、症状、規制、発生動向、直近の累積報告数、感染源などについて。
37	E型肝炎	Pro Med 2005年1月7日	今年ムンバイ市内では、黄疸性E型肝炎ウイルス感染が、市の南部で猛威を振るっていると医療関係者が指摘している。
38	E型肝炎	ProMED 2004 Dec;74(4): 563-572	1979年にHEVに感染した1名は、ウイルス血症になる21日前に2Uの血液を輸血していたことを確認した。
39	E型肝炎	Transfusion 2004;44(6):934-40	海外渡航歴が全くない67歳の日本人男性患者が、23名のドナーからの輸血を受け、その後原因不明の急性肝炎に罹患した。急性期の患者の血液サンプルの肝炎ウイルスマーカーを調べたところ、HEV抗体のIgMとIgGだけでなく、HEVのRNAも含んでいた。また、輸血したFFPユニットの1つからもHEV RNAを検出した。患者とドナーのPCR産物は、ORF1内の2つのHEVに特長的な領域が完全な同一性を示した。
40	E型肝炎	食品衛生研究2005;55(2):49-51	冷凍シカ肉からE型肝炎ウイルスが検出された例。
41	HIV	"HIV/AIDS Epi Updates 2005" May 2005 ed by Public Health Agency of Canada	Public Health Agency of Canadaの感染症対策予防センターのサーベイランスおよびリスク評価部門が2005年5月に『HIV/AIDSの最新疫学情報(HIV/AIDS Epi Updates)』を発行した。毎年1回編集されている、カナダにおけるHIV感染症の30%は診断されていない可能性があることなどについて記載。
42	HIV	AABB Weekly Report 2004; 10(35)	インド保健省によると、現在のインドにおけるAIDS症例の3~4%が輸血を介して伝播された。
43	HIV	Canada Public Health Agency、Infectious Diseases News Brief.2005年2月19日	急速進行性のHIVの高耐性株が一度も抗ウイルス薬治療の経験のないニューヨーク市民から初めて診断された。3クラス抗レトロウイルス薬耐性HIV(3-DCR HIV)株は、3つのクラスの抗ウイルス剤に対して耐性を示し、HIV感染からAIDS発症までの期間が非常に短縮されているように見える。

番号	感染症	出典	概要
44	HIV	CCDR、Vol. 31No.5, 53-55(2005)	性交渉の相手および薬物を共有している相手にHIV/AIDSの状態を伝えない人々は疾病を伝播する可能性がある。輸血・静脈薬物使用・母子感染・針刺し事故・性的暴露などの個々の行動に関連したHIV伝播のリスク、HIV/AIDSの状態を伝えない人々の問題に取り組むための戦略の評価など概要を記載。
45	HIV	CDR Weekly, Vol. 15 No. 10(2005)	Health Protection Agency's Centre for Infections(CFI)が、職業的暴露後に医療従事者で発生したHIVセロコンバージョン症例を照合している。看護師、臨床検査室職員、医学生を含む医師(外科医は含まない)などが対象。
46	HIV	CDR Weekly, Vol. 15 No. 12(2005)	2005年3月、後期HIV診断と早期死亡率の推定数および割合の国内の傾向に関する報告が発表された。CD4細胞数200/mm ³ 以下と定義される「後期HIV」と診断されたMSMは、HIV診断の1年以内に死亡する可能性が10倍以上であることが示されている。
47	HIV	CDR Weekly, Vol. 15 No. 8(2005)	2004年に新規HIV感染診断5016件が報告され、1982年のサーベイランス開始後英国で報告されているHIV診断総数は68556件になった。現在までに21010例がAIDSと診断され、そのうち16131例が死亡、2004年の新規診断数は7000例近くと高水準、感染経路(2004年、57%(2860件)が男女間の性交渉であることなど)、診断症例の地域および診断年の表などが記載されている。
48	HIV	CDR Weekly, Vol. 15 No. 16 (2005)	英国静注薬物使用者のHIV有病率の動向。ロンドンにおいてHIV伝播の増加の可能性を示唆する徴候が提示された。HIV有病率は一次低減し、安定した状態であったが、近年では有病率が増加している。
49	HIV	Eurosurveillance Weekly 2005;10(8)	抗ウイルス剤治療歴のないニューヨーク在住者が高度薬剤耐性の新型HIV株に感染し、急速にAIDSに進行した症例が発見された
50	HIV	HIV and AIDS in african communities.英国保健省 2005	英国におけるHIVおよびAIDSはアフリカ人コミュニティに偏っており、これは英国における流行パターンにも反映されていることなどについて記載されている。
51	HIV	HPS Weekly Report, Vol.39 (2005/15) 89-90 (2005)	新生児からの乾燥炉紙血(Dried Blood Spot)でのHIV検査を通して、スコットランドの女性53828名のHIV感染症の状態が検査されている。1999年~2004年のスコットランドの出産した女性でのHIV感染症罹患率のグラフ、HIV感染症の傾向についての表なども掲載。
52	HIV	HPS Weekly Report, Vol.39 (2005/3),18-20 (2005)	2004年はHPAにHIVの診断365件が報告され、過去最高。男性と性交渉を持つ男性(MSM)および異性愛者における診断は2003年より多く、MSMにおける診断数の増加の主な理由はHIV検査受診者の大幅な増加、異性愛者の男性および女性におけるHIV診断数の増加はHIVの感染率が高いサハラ以南(ジンバブエなど)からスコットランドにきた人々の増加によることなどを記載。
53	HIV	HPS Weekly Report, Vol.39 (2005/15) 92 (2005)	2005年第1四半期はHIVの診断83件がHPSへ報告され、報告の特徴(率およびリスクカテゴリーの分布)は2004年に観察されたものと一致していること、2004年にHIV感染女性13例が出産しており、これらの症例のHIVの状態は妊娠前は知られていなかったこと、観察結果から全体的に国家の新生児HIV検査は全国を通して実施は成功していることを示していることなどについて記載されている。
54	HIV	HPS Weekly Report, Vol.39 (2005/26) 147-148 (2005)	2003年4月~2004年12月にGlasgowで197検体、Edinburghで401検体がHIV薬剤耐性検査を受けた。78%が遺伝子型耐性(ヌクレオシド逆転写酵素阻害剤(NRTI)耐性、非ヌクレオシド逆転写酵素阻害剤(NNRTI)耐性、プロテアーゼ阻害剤(PI)耐性を示し、22%が耐性を示さなかった。
55	HIV	HPS Weekly Report, Vol.39, (2005/3), 11-18 (2005)	スコットランドにおける累計はHIV報告数4219例、AIDS症例数1238例、死亡総数1402例、AIDSによる死亡数854例;2004年の第4四半期に、91名のHIV抗体検査陽性結果が報告された。
56	HIV	http://allafrica.com/stories/200506201190.html	この国内の取り組みは新規HIV感染症症例数を低減させる国立血液輸血サービスの顧問病理学者の報告によると、プログラムを開始後12カ月に献血血液の廃棄は15.9%から9.9%に低下した。

番号	感染症	出典	概要
57	HIV	http://www.aegis.com/news/ads/2005/AD050524.html	中国東部の当局は1990年以降に売血をした人々に対するHIV検査の実施を開始。中国保健省は中国におけるHIV陽性患者は84万人、AIDS患者は8万人と報告している。WHOは感染者数を150万～200万人と推定。
58	HIV	http://www.blackaidsday.org/NBHAAD_info_home.htm	Fact Sheetには米国では現在推定80万～90万人のHIV感染症症例があり、毎年約4万人がHIVに新たに感染していること、米国において報告されているAIDS症例数(2000年12月現在774467例)、AIDSによる死亡症例数(2000年12月までに448060例)、AIDS症例および死亡の減少の減速などについて記載されている。
59	HIV	http://www.phac-aspc.gc.ca/publicat/epc/aids-sida/haic-vsac1204/index.html	カナダにおけるHIV・AIDS、1984年～2004年のカナダの周産期HIVサーベイランスプログラムの報告、カナダにおけるHIV/AIDSによる死亡などについて記載。カナダにおけるAIDS診断の成人女性が占める割合が増加していることなどが記載されている。
60	HIV	IASR(共同通信2004年12月3日)	在日外国人のHIV-2型感染が確認された。
61	HIV	MHRA/CRD Weekly 10, March 2005	職業的曝露後に医療従事者で発生した「実証された」および「可能性のある」HIVセロコンバージョン症例に関する報告。
62	HIV	MMWR, Vol.54No.24, 597-601 (2005)	男性と性的関係を持つ男性(MSM)におけるHIV感染、以前に受けたHIV検査などについて評価するため、CDCがアメリカの5都市のデータの分析を行った。調査されたMSMのうち25%がHIVに感染し、それらの48%は感染に気が付いていなかったことが示されていた。
63	HIV	ProMed, 2005年2月14日	先日ニューヨーク市在住の男性から検出された稀で病原性が高いヒト免疫不全(HIV)ウイルスの感染源を確認するため、AIDS患者2人から分離されたHIV(AIDS)ウイルスが解析されている。
64	HIV	ProMed, 2005年2月7日	ニューヨーク市保健精神衛生局(DOHMH)によれば、急速進行性のHIV(ヒト免疫不全ウイルス)の高病原性株、3-DCR HIVが、一度も抗ウイルス薬治療を受けたことのないニューヨーク市民で初めて確認された。
65	HIV	Public Health Agency of Canada, 2005/3/22	アボリジニーにおけるHIV/AIDSの流行について非アボリジニーと比較されている。概括として、アボリジニーにおけるHIVの流行は下降の徴候を示していないこと、アボリジニーにおける最も一般的なHIV伝播の様式は静注薬物使用であることなどが示唆され、このことからアボリジニーにおけるHIVの流行は異なる特徴がありカナダのHIV流行を複雑にしている。
66	HIV	Science 2004;305:1243-4	米国における現在のAIDS患者背景に関する報告。アフリカ系アメリカ人、ヒスパニック系若年層、低所得層における感染率の高さが示されている。またいくつかのHIV感染対策案が示されている。
67	HIV	Surveillance Report to March 31, 2004	カナダ政府が『カナダにおけるHIV株および第一選択薬に対する耐性』を発行。HIV-1サブタイプの分布、第一選択薬に対する耐性(1996年～2004年3月31日)について記載。ウェブサイトで見覧が可能。
68	HIV	The Lancet 2005;365(9464):1031-38	2004年12月にヒト免疫不全ウイルス1型(HIV-1)感染と診断された男性の症状は20ヶ月以内(おそらくは4ヶ月以内にAIDSに進行した)。
69	HIV	The New England Journal of Medicine 2004;351(8):760-68	血清学的検査陰性供血者の「米国供血者に対するミニプール核酸増幅検査の結果、年間約5件のHIV-1、また、約56件のHCVを検出した。
70	HIV	The Telegraph, 2005年4月14日	インドのムザファルナガルの市民が、HIV陽性の9才男児の死亡後、少年が民間の血液バンクから提供された汚染血液からウイルスに感染した疑いから市全体にわたる抗議を行った。
71	HIV	The Weekly Epidemiological Record 2004;79(50)	WHOおよびUNAIDは2004年末でのHIV/AIDS感染者の世界的状況について述べている。HIV/AIDS流行により、2004年に約500万(430万～640万)人がHIVに感染し、約300万(280万～350万)人が死亡している。

番号	感染症	出典	概要
72	HIV	USA Today, オンライン版、2005年6月15日	米国南部における女性AIDS症例数は貧困、無力感、疾病に対する認識不足および医療の受けにくさが原因で増加している。特にヒスパニック系女性で4倍、黒人女性で18倍増加し、71%が異性間性交渉を介して感染しているとCDCは言及している。
73	HIV	WHO Weekly epidemiological record, Vol.79, No. 50, 441-449 -2004	WHOおよびUNAIDSは2004年末のHIV/AIDS感染者(PLWHA)は3940万人(3590万~4430万人)となると推定している。
74	HIV	WHOニュース.2005年3月24日	WHOが2005年3月24日に発表したGlobal tuberculosis control2005年報告によると、1990年以降世界における結核罹患率は20%以上減少し、発生率は現在世界6地域中5地域において下降または安定している。明らかな例外はアフリカで、アフリカ大陸全域で年間3-4%上昇していることなどについて記載されている。
75	HIV	感染症週報:7(3)13-14(2005)	日本のAIDS患者・HIV感染者の状況(平成16年9月27日~平成17年1月2日):平成16年第4四半期報告によれば、法定報告に基づく新規報告数は、HIV感染者が190件、エイズ患者が93件であった。過去最高であった前回報告からは数字の上では減少している。
76	HIV感染、肝炎	HPS Weekly Report, Vol.39, (2005/3) 21-22, (2005)	Scottish National Blood Transfusion Service (SNBTS)による献血血液の検査において278054の血液中計39で血液媒介感染症の陽性マーカーが確認されたこと、39件の感染血液はHCVが23件、HBVが8件、HIVが3件、過去の梅毒が5件であった。
77	HIV感染、肝炎	HPS Weekly Report, Vol. 39, (2005/3), 22-23 (2005)	HIV:2002年末時点で世界で4200万例以上がHIVキャリアー。同年にサハラ以南のアフリカにおいて約2500万例が死亡。スコットランドのHIV感染症の大部分はサハラ以南出身のアフリカ諸国の男性と性交渉を持つ男性および異性愛の男女。肝炎:世界で慢性B型肝炎のキャリアーが350万例以上、英国は流行の低い地域と考えられており、慢性B型肝炎の罹患率は0.1%以下、スコットランドでのC型肝炎は主に静注薬物使用者における伝播。
78	HIV感染、肝炎	MMWR Weekly, Vol.54 No.04, 89-94 (2005)	2003年、米国におけるHIV/AIDS症例の28%が女性で、その約69%が非ヒスパニック系黒人女性であったこと、ノースカロライナ州では新たに報告されたHIV感染の黒人女性における割合が増加し、同州の黒人女性のHIV感染率が白人女性と比較して14倍高かったことなどについての調査結果などについて記載。
79	HIV感染、肝炎	The Tribune、オンライン版 2005年3月23日	インドの会計検査院から多くのユニットの血液がHIVおよび肝炎に対する必須のスクリーニングなしに国立病院で患者に輸血されたと最近発表された。
80	HTLV	CDR Weekly, Vol. 15 No. 8(2005)	2004年に英イングランドおよびウェールズにおいてHTLV感染症新規診断が83例あったこと、HTLV-I型が94%陽性と最多。感染経路についても記載されている。
81	HTLV	Commun Dis Public Health 2004;7(3):207-11	輸血を介して伝播されたHTLV確定例の2症例が報告された。
82	HTLV	J of Infectious Diseases 2005 ;191(9):1490-7	ヒトTリンパ球向性ウイルス(HTLV) - I とHTLV- II の性感染発生率を10年間に渡り追跡調査した結果。
83	HTLV	Proceedings of National Academy Science 2005;102(22):7994-9	今までヒトでは感染が確認されていなかった2種類のTリンパ球向性ウイルス(HTLV-3, HTLV-4)が初めて人から分離された。
84	HTLV	Reuters Foundation AlertNet, Newsdesk 26 Feb 2005	これまで人間では感染が認められていなかったレトロウイルス(HTLV-3及びHTLV-4)がカメルーンで日常的にサルを狩猟している人々から発見された。
85	ウイルス感染	J of clinical microbiology 2005;43(2),657-661	急性胃腸炎を引き起こすノロウイルスにおいてブタと人との間で遺伝的トランスミッションを起こす人畜共通感染症として示唆している
86	ウイルス感染	ProMED: 20050520-0020 2005/5/18	レユニオン島(モーリシャス島から230km)では、チクングンヤウイルス病の最初の患者は先週初めに報告され、その後患者数が急激に増えている。
87	ウイルス感染	ProMed20040917-0010(オーストラリア農業省)	西チモールでブタおよびニワトリが原因不明の大量死
88	ウイルス感染	ProMed20050209-0070(厚生労働省ホームページ2005年2月9日)	アフガニスタンで過去2年間で原因不明の呼吸器疾患で21名以上が死亡

番号	感染症	出典	概要
89	ウイルス感染	ProMed20050216-0410 (India News 2月24日)	Taj市において100頭以上のブタが大量死したが、原因は不明である。
90	ウイルス感染	ProMed20050228-0030(The Jakarta Post 2月25日)	インドネシアで原因不明の下痢で149名中19名が死亡。
91	ウイルス感染	ProMed20050402-0050(Thanh Nien Daily 4月1日)	ベトナムで原因不明の疾患のため2名死亡、120名発病。問題の疾患は足と腕の麻痺を生じる。
92	ウイルス感染	ProMed20050406-0080(MASTA Health Report 4月4日)	コモロ諸島で4ヶ月続いていた感染症の原因がチクングンヤウイルスであると判明した。
93	ウイルス感染	Transfusion 2004;44:1396	健康人の血液中にもボルナ病ウイルスの存在が確認され、輸血を介して感染する可能性が考えられる。
94	ウイルス感染	Transfusion 2005;45(4):500-3	米国で1986年から1990年に輸血による病原体の感染率の研究に参加した患者406例から術前と術後6ヶ月目に血清採取しHHV-8の血清状態を測定した結果。米国における血液製剤を介したHHV-8伝播を示唆する最初の報告。
95	ウイルス感染	1.ProMed20041127-0070(The Daily Star) 2.The Daily Star November23,2000	バングラデシュで原因不明の疾患により、ウシが約2000頭死亡したという報告である。
96	ウイルス感染	1.ProMed20050130-0010(New Straits Times1月29日)	Malacca州の農場で発生した120頭以上のブタ大量死原因はニパウイルスや豚コレラではなかった。
97	ウイルス性脳炎	ProMED情報(詳細) 2005.6.1	CDCによる2005年5月にマサチューセッツ州、ロードアイランド州で発生した臓器移植に伴うリンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス感染死亡患者事例に関する調査等の情報。
98	ウイルス性脳炎	CDC/MMWR 2005;54(05);123-5	日本脳炎ワクチン未接種のワシントン居住者がタイ北部に旅行し、帰国後日本脳炎を発症した事例。
99	ウイルス性脳炎	ProMed20050414-0070(Fons Van Gompel(MD))	2004年7月に2ヵ月中国の上海で過ごし、後に日本脳炎を発病した10才のベルギー人少女患者について。たった2週間中国の近代都市滞在中で日本脳炎に感染したとは特記すべき症例である。
100	ウイルス性脳炎	ProMed20050427-0010(Sarah Borwein)	3年前、北京に住んでいた海外からの移住者が、日本脳炎と確認された(北京には発病前1ヵ月たらず在住したに過ぎなかった)。神経学的後遺症を合併した。
101	ウエストナイルウイルス	American Journal of Transplantation 2004;4:830-3	54歳の腎移植患者のウエストナイルウイルス感染の事例。
102	ウエストナイルウイルス	CBER Guidance for Industry April 2005	本ガイダンス案は、FDAが先に発行した2003年5月付のWNV感染した血液ドナーに関するガイダンスの改訂案である。今回は「発熱を伴った頭痛」を有するドナーは供血禁止とされ、また、再登録には個別NATで陰性の確認が必要などの変更点があげられている。
103	ウエストナイルウイルス	CDC 2005年1月11日	アメリカでは西ナイルウイルス感染が増加の傾向にある。アメリカ以外でも感染報告が散見される。
104	ウエストナイルウイルス	CDC/EID,11(8) 1294-1296,2005	入院7日前に発熱、頭痛、精神的変調をきたした男性が、アリゾナ州の病院に2004年7月7日に入院した。この患者のCSF(脳脊髄液)の所見はウイルス性脳炎と一致していた。採取されたCSFサンプルはELISAによるWNV IgM抗体陽性で、血清サンプルについてはPRNT法によりWNVのIgMが7月7日から14日に4倍上昇し、WNV感染が確認された。
105	ウエストナイルウイルス	Department of Health./Press releases Mar. 1, 2005	米国において輸血および臓器移植による西ナイルウイルス症例数例が報告されている。

番号	感染症	出典	概要
106	ウエストナイルウイルス	ProMed20041008-2759(フランス食品安全局)	2004年8月28日(疫学第35週)に、ウマ2頭のWNV感染疑い(臨床診断)例が、フランス南東部Camargue地域で獣医師により確認された。9月30日までにウマの死亡例4例と疑い症例37頭が報告された。
107	ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	ProMed20050501-0030(OIE)	米国における水疱性口内炎について流行終息宣言地域における再発生。2005年4月28日現在。
108	ウシ膿ほう性口内炎ウイルス感染	ProMED情報(詳細) 2005.5.11 (国際獣疫事務局(OIE) Disease Information Vol.18- No.17 2005.4.29)	緊急報告の理由: 流行終息宣言地域におけるOIEリスト掲載疾患の再発生 起因病原体の正確な同定-水疱性口内炎ウイルスNew Jersey型 感染の初回確定日-2005年4月27日感染の発生日-2005年4月19日 詳細-場所: ニューメキシコ州Grant郡Mule Creekの農場。ウマ: 疑い6例、発症2例。ウシ: 疑い110例。感染群の概要-ウマ6頭は敷地内で飼育されており、ウシの放牧のための労働を行っていた。
109	ウスツウイルス	Emerging Infectious Diseases 2005;11(2):298-301	ウスツウイルスがヒト由来の細胞を含め、多種の動物に由来する多様な組織型の培養細胞に感染しうることが示された。
110	ウマ脳炎	The Boston channel com 17 Sep 2004	アメリカにおいて蚊を媒介とする東部ウマ脳炎がヒトで発生した3例目の事例。
111	エボラ出血	Emerging Infectious Diseases 2005;11(2):283-90	2001~2003年にガボン共和国及びコンゴ共和国でヒトで流行したエボラ出血熱について、野生動物のエボラウイルスによる死体を採取し、検査した結果、類人猿のみでなく、小型レイヨウ(牛科)であるduikerからもエボラウイルスが検出された。
112	エルシニア感染	ICUとCCU2005;9(2):45-9	輸血によりエルシニア感染し死亡した症例。厚生労働省へは報告済み。
113	BSE	Canadian Food Inspection Agency News Release 2005年3月2日	米農務省がカナダにおいて実施した反芻動物由来飼料の使用禁止措置の遵守状況に関する調査。調査結果では、カナダにおける同禁止措置の遵守状況は良好であり、遵守率も高まっている。
114	BSE	OIE Press Release 2005年2月2日	2005年1月28日、BSEに対するOIE委託研究所である英国の獣医学研究所を含むEUの専門研究所からのフランスのヤギにおけるBSE初症例について。
115	BSE	ProMED: 20050126-0070: 2005/01/19 OIE Disease Information Vol.18-No.3	2005年、カナダのアルバータ州Red Deer地区の牧場で生産・飼育されたウシ1頭にBSEが確認された。罹患ウシは雌のCharolais種で、1998年3月生まれの81カ月齢であった。当局は関連性を追跡中である。
116	BSE	ProMed20050629-0020(News24)	2004年11月に迅速スクリーニング検査で検討されたときにはBSEと診断確定できなかった牛が2005年6月に英国のOIEのBSE委託研究所でウエスタンブロット法と免疫化学法を用いて陽性と確認された。
117	BSE	ProMed-mail Archive Number:20050128.0312[3] Published Date:28-JAN-2005	フランスにおいて2002年来BSE感染の疑われていたヤギは、その後英国とフランスとの共同研究により確認試験を実施中であった。マウスを用いたbioassay試験の結果、当該疾病は世界初のヤギへのBSE感染例であることが確認された(2005年1月28日発表)
118	BSE	ProMED情報(詳細) 2005.7.4 (USDA記者発表 2005.6.29)	米国農務省(USDA)による声明。2005年6月第4週、BSE検査陽性と同定された動物が飼育されていた個体集団(群)がDNA検査により同定された。飼い主から当局が入手した情報に基づいて、このウシはテキサス州内で飼育されている集団で生育し、年齢が約12才前後であったことが確認された。
119	BSE	USDA News Release. No.0232.Jun 24, 2005 USDA ANNOUNCES BSE TEST RESULTS AND NEW BSE CONFIRMATORY TESTING PROTOCOL	米国テキサス州生まれで、2004年11月にアメリカ農務省(USDA)がBSE擬陽性と判定したウシの試料を英国Weybridge研究所が検査の結果、3頭のうち1頭をBSEと判定。以後、USDAはELISA試験が陽性の場合、二次検査としてWestern blotあるいは免疫組織化学的検査を実施し、少なくとも一方が陽性の場合にはBSEと判定するように検査法を改正。
120	BSE	Canadian Food Inspection Agency News Release, 2005年1月11日	カナダ食品検査局(CFIA)は2005年1月11日、カナダの全国(BSE)サーベイランス計画により、アルバータ州の7才未満の個体で、ウシ海綿状脳症(BSE)感染を確認したと発表。
121	BSE	HPS Weekly Report, Vol.39 (2005/11)68(2005)	1992年~2005年2月4日までの、英国およびスコットランドにおけるBSE確定症例数(2005年(2005年2月4日まで)は英国において3例、スコットランドにおいて1例)。

番号	感染症	出典	概要
122	BSE	OIE disease information, Vol.18 No. 25 2005年6月24日	オーストリアにおける2例目のBSE感染ウシの概要。アウトブレイクの原因／感染源は、不明もしくは結論に到達していない。
123	BSE	OIE disease information, Vol.18 No. 26 2005年7月14日	米国において、BSE感染したウシは、米国政府が1997年8月に反芻動物組織を反芻動物の飼料とすることを禁じる前に生まれた。農務省は問題の動物の起源を確定するための調査を開始した。感染源は不明もしくは結論に到達していない。
124	BSE	OIE disease information, Vol.18 No. 5 2005年2月4日	フランスでの、BSEの原因である病原性プリオンタンパク質が同定された。成体のヤギ300頭を含む搾乳用ヤギ群で発見されたヤギのBSE症例1例が発見された。症例は2005年1月28日にOIEのBSEリファレンス研究所などにより確定された。原因は、不明もしくは結論に到達していない。
125	BSE	Pro Med 2005年2月3日	フランスのヤギがBSEに罹患したことが確定された。EU加盟国は、EUで飼育されるヤギに対してBSE検査を強化するとして欧州委員会による提案に同意した。
126	BSE	ProMed、2005年2月8日	英国政府から1990年にスクレーピーに感染したと診断されたヤギが、実はBSE(狂牛病)であった可能性が出ていると発表された。
127	BSE	ProMed、2005年4月28日	世界中のBSE症例数更新:2004年にBSE発生率が最も高かった2国は、ポルトガル(93.870)と英国(67.796)で従来と同じ。スロバキア、ポーランド、チェコ共和国および日本が前年より高い発生率。オランダでのBSE対策の経緯の情報。
128	BSE	ProMed、2005年6月11日	アメリカで2例目のBSE陽性ウシが見つかった。検体は、2004年11月にテキサスで衰弱し死亡したウシから採取され、USDA検査長の要請で再検査された。2004年秋の検査でこのウシはBSEではないと思われていたが、より正確な検査を行った結果「弱陽性」となった。2つの検査結果が異なるため、検体は来週、英国のWeybridgeにある世界最高水準のBSE検査機関に送る予定である。
129	BSE	ProMed、2005年6月11日	米国産のウシでBSE検査が陽性となり、さらなる追加検査が結果を確定するためにイギリスの検査室で実施される。以下、農務省USDAにより一旦BSE検査をクリアしたウシに改めてBSEの疑いがかけられたことに関して、公衆衛生上の新たなリスクにはあたらないとする記載。
130	BSE	ProMed、2005年6月13日	情報源:Alertnet、6月13日。米国農務省(USDA)は米国のBSE疑いウシは1997年の飼料禁輸措置以前に生まれたと述べた。
131	BSE	ProMed、2005年6月14日	今回の米国産BSE可能性患畜となったウシは1997年8月以前に生まれており、この時期は米国政府がBSE感染拡大を予防するための新規飼料輸入規制を実施した時期であるとUSDAは述べた。
132	BSE	ProMed、2005年6月21日	オーストリアのアルペン地方で再び狂牛病のウシが発見された。オーストリアで2例目となる。感染経路は不明なことなど
133	BSE	ProMed、2005年6月24日	6月17日時点でカナダ食品検査局(CFIA)は2005年度連邦および州検査室併せて32363頭のウシ検体検査を完了しており、2003年度の5500頭、2004年度の23550頭から大幅に増加している。
134	BSE	ProMed、2005年6月24日	従来狂牛病(牛海綿状脳症:BSE)ではないとされていた米国産ウシが検査でBSEであることが診断確定した。このウシは米国における2頭目のBSE患畜になる。イギリスのWeybridgeにある国際BSE委託検査室においてBSE診断が確定した。
135	BSE	ProMed、2005年6月26日	2005年6月24日、米国農務省(USDA)がイギリスWeybridge(国際BSE委託検査室である)獣医学検査室(VLA)より、2004年11月に食用供給から外された動物検体が牛海綿状脳症(BSE)検査陽性であるとの最終検査結果を受領したことを公表。
136	BSE	ProMed、2005年6月6日	国際的なBSE症例更新情報:農林水産省は、2005年6月初旬に採取された検体を解析した結果、北海道鹿追町で飼育されていた4才9ヵ月令のウシがBSEに感染していたと結論したとしている。

番号	感染症	出典	概要
137	BSE	ProMed、2005年7月1日	米国農務省(USDA)はBSE発症ウシ生産元がテキサス州南東部であると公表。狂牛病検査陽性となったウシはテキサス州南東部が生産元であると、このウシの配送を担当したペットフード会社所有者が2005年6月30日公表した。
138	BSE	SCIEH Weekly Report, Vol.38 (2004/50) 304 (2004)	2004年12月1日、スコットランド大臣は高令のウシに関しフードチェーンへの入り込みの自動的な禁止を解除し、かわりに正確なBSE検査レジメンに置き換える考えを発表した。
139	BSE	USDA Newsroom Release No0007.05	動植物衛生検査局獣医部責任者Dr. Ron DeHavenの、米国での最初のBSE感染症例が、今回のウシと同じアルバータ州産集団由来であったことなどの声明。))
140	BSE	ABC newsletter 2005年2月11日	スコットランドにおいて、BSEに感染したヤギが1990年には存在していた。
141	BSE	AFSSA/2004年10月28日	EUのサーベイランス調査プログラムで特定された伝達性亜急性海綿状脳症(TSE)例の株の仏国内タイピングネットワークによって、2002年にと畜されたヤギにおいて、調査の現段階でウシ海綿状脳症(BSE)株と同じような特徴を有する感染性病原体が、存在することが指摘された。
142	BSE	Associated Press 2004年11月18日	米国で2例目となるBSE(ウシ海綿状脳症)症例が確認される可能性が出ているが、農務省当局は2004年11月18日、問題のウシは食物連鎖(食糧・飼料)からは除外されていると発表した。
143	BSE	Canadian Food Inspection Agency News Release 2005年2月11日	2005年1月11日に発見されたウシ海綿状脳症に関する調査結果。感染ウシは反芻動物由来飼料の使用禁止措置直後に生産された飼料を介して感染した可能性が確認された。
144	BSE	Canadian Food Inspection Agency News Release 2005年1月21日	2005年1月2日に発見されたウシ海綿状脳症に関する調査結果。感染ウシが1997年に施行された反芻動物由来飼料禁止以前に生産された飼料が与えられていたことが確認された
145	BSE	European Commission Press Release 2005年1月28日	2002年にフランスで屠殺されたヤギのBSE疑い事例は、ヨーロッパの科学者会議において本日、BSEと確定された。ECはこれが孤発例であるものかどうかを決定するために検査を行うように提案した。自然界のヤギにおいて最初に見つかったBSEであるが、EUではこのような事態から消費者を保護するための措置を数年間にわたり適用している。ヤギのTSE感染レベルは極端に低く、消費者へのリスクはほとんどない。
146	BSE	J of Compalative Pathology 2004;132/1,59-69	実験的にBSE感染させたヒツジでは、症状発現前の段階で採取した扁桃腺生検サンプルにPrPscが検出される可能性を示唆した。
147	BSE	J of General Virology 2004;85:2471-8	BSEプリオンを異なる系統の近交系マウスに接種すると2種類のPrPse型が増殖し2種類のプリオン株が分離されている可能性が示唆された。
148	BSE	J of General Virology 2004;85:3159-63	BSE感染ウシの脳を経口摂取したヒツジから子羊が母子感染する頻度は、臨床的にBSE感染したヒツジが母子感染する頻度より低い結果となることが示唆された。しかし母子感染を完全に否定はできない。
149	BSE	ProMed20050103-0020(カナダ食品検査局)	疑い動物でBSE感染の診断確定、調査が進行中。カナダ食品検査局(CFIA)は本日[2004年1月2日]、アルバータ州の高令の乳牛が検査で牛海綿状脳症(BSE)陽性となったことを確認した。感染が確認された個体は、1997年の飼料規制導入以前の1996年に誕生した。BSE確定症例のいかなる部分も、ヒトおよび動物飼料の食物連鎖環に入っていない。
150	BSE	ProMed20050109-0020(OIE)	カナダの全国(BSE)サーベイランス計画により、アルバータ州の7歳未満の個体で、ウシ海綿状脳症(BSE)感染を確認したと発表した。
151	BSE	ProMed20050204-0030(EU press Rereases 2 Feb 2005)	フランスのヤギが狂牛病検査の結果、陽性であることが判明したことから、欧州委員会は、ヤギの検査数を4倍に増やす計画である
152	BSE	STATEMENT by USDA	2005年6月29日、米国農務省(USDA)より先週、BSE陽性と判定された牛の群を特定したと発表した。

番号	感染症	出典	概要
153	BSE	The Lancet 2005;365(9461):781-3	BSEが霊長類に経口伝播した場合に変異型クロイツフェルト・ヤコブ病として発症する可能性を検討した実験。使用した2頭のマカクザルのうち1頭は、BSE感染ウシ由来の脳ホモジェネートの経口摂取により神経症状を発症したが、もう1頭は無症状であった。
154	BSE	厚生労働省ホームページH17年 年5月6日	BSEスクリーニング検査結果について。全牛検査開始以降にBSEと診断された牛は12頭。
155	クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2005 ;11(5)	2005年2月8日、FDAのTSE諮問委員会(TSEAC)の会議が開催された。諮問委員会はフランスにおいて1980年以降に輸血を受けた米国の献血者の据え置きをするようFDAに勧告することを決定し、他のヨーロッパ諸国には勧告を拡大すべきでないことを合意した。
156	クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Clinical Microbiol 2005;43(3):1118-1126	レクチン(RCA)結合性を比較することでsCJDとvCJDのプリオンタンパク質が識別できる可能性がある。
157	クロイツフェルト・ヤコブ病	J of General Virology 2004; 85 (Pt9): 2727-33	PrP ^{Arr} をエンコトする対立遺伝子をホモ接合に持つ羊は、スクレイピー抵抗性であると考えられていたが、小脳、延髄間部、前頭皮質、脳幹にPrP ^{sc} 蓄積が確認された。
158	クロイツフェルト・ヤコブ病	Ministerio da saude Direccao-Geral da Saude Comunicado, lisboa (2005年6 月9日付)	保健監督局に変異型クロイツフェルト・ヤコブ病のはじめての可能性例が検査診断結果と共に報告された。この他には本疾患の症例はなく、変異型クロイツフェルト・ヤコブ病が疑われるような症状の例もないとの通知書。
159	クロイツフェルト・ヤコブ病	Neurology 2005 ;64(5):905-7	R208H変異がPrP ^{sc} の特性や疾患の表現型には大きな変化を与えずに疾患感受性に影響を及ぼす。
160	クロイツフェルト・ヤコブ病	Proceedings of National academy Science 2005;102(9):3501-6	クロイツフェルト・ヤコブ病の診断には構造依存性免疫試験(CDI)を行うとより正確に行える。
161	クロイツフェルト・ヤコブ病	Science 2005;307(18): 1107-10	慢性炎症状態がプリオンの自然及び医原性伝播に影響し拡大させる可能性を示唆した。
162	クロイツフェルト・ヤコブ病	Sciencexpress report 2005;307:1107-10	腎臓、脾臓又肝臓に5つの炎症を有するマウスにプリオンを投与したところこれらの臓器にプリオンの集積が認められたが、リンフォトキシン- α 又はその受容体を欠いたマウスの炎症臓器にはプリオンは集積しなかった。
163	クロイツフェルト・ヤコブ病	Scrippharma;3000:6 2004年 10月29日	クロイツフェルト・ヤコブ病に感染していることが後に判明した人物により献血された血液を用い製造された一部の血液由来医薬品(LFB製の凝固因子、アルブミン)を回収した。この人物は1993年から2003年の間に数回にわたり献血をしていた。
164	クロイツフェルト・ヤコブ病	厚生労働省 緊急情報 健康局疾病対策課国内における変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)の発生について(2005.2.4)。変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)に係る感染経路について(2005.3.7)	日本国内で初の変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)が確認された。症例は男性で平成13年に40歳代で発症し、平成16年死亡。平成元年頃、約1ヵ月間の渡英・仏歴あり。Prion蛋白遺伝子に変異がみられず、vCJDに特徴的な病理所見およびウエスタンブロットの所見からvCJDと診断(2005.2.4)。感染経路は、輸血歴等無く、渡航中のBSE牛の経口摂取の可能性が示唆される(2005.3.7)
165	クロイツフェルト・ヤコブ病	厚生労働省ホームページH17年 3月7日	平成17年3月7日に開催された薬食審・血液事業部会運営委員会において協議された当面の暫定措置。1996年までに英に1日以上滞在歴がある者の献血を制限等。
166	クロイツフェルト・ヤコブ病	AABB Weekly Report 2005:11(8):7-8	モロッコで最初のvCJD報告について。この男性は定期的にヨーロッパを訪問していた。
167	クロイツフェルト・ヤコブ病	Assessing the Risk of vCJD Trans- mission via Surgery: an interim reviewEd. Department of Health2005年 3月	専門家向けの手術器具の再使用を介した変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)感染リスクの分析のupdate。全体として、手術を介したvCJD感染リスクは重大であると考えられる。高水準の滅菌基準の実施が非常に重要であるが、現在の技術は限度があり感染患者に用いられた器具のvCJD感染のリスクは未だ有意であることなどについて記載されている。

番号	感染症	出典	概要
168	クロイツフェルト・ヤコブ病	CDR WEEKLY;14(39)	供血後にvCJD発症した人由来の製剤の投与を受けた人の一部については血液等の提供をしないようにする等の勧告。
169	クロイツフェルト・ヤコブ病	Cell 2005;121(2):195-206	異常プリオン蛋白質をIn vitroで生成することができ、プリオン伝播が蛋白質のみにより起こる仮説を支持する強力な証拠と考えられる研究。
170	クロイツフェルト・ヤコブ病	Eurosurveillance;10(16)2005年4月21日	オランダで初めてのvCJDの可能性のある症例が報告された。
171	クロイツフェルト・ヤコブ病	FDA TSE advisory committee 告知、2005年2月8日	伝達性海綿状脳症(TSE)諮問委員会は、血漿由来製品における変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)病原物質への暴露の可能性に関するリスク評価、英国在住のドナーの血漿から1990年代に製造された治験用血液凝固因子第XI因子のvCJDリスク、および、フランスおよび他のヨーロッパ諸国における輸血歴のある血液および血漿ドナーの据え置きの可能性について検討する会合予定を発表(2005年2月8日開催予定)
172	クロイツフェルト・ヤコブ病	HPS Weekly Report, Vol.39, (2005/3), 10 (2005)	英国の1990年代における感染に関連したvCJDによるさらなる死亡は比較的少ない、英国におけるvCJDの発生は減少、リンパ網内系細胞組織の調査結果により、臨床データの予想よりも実質的に高いvCJD有病率が示された。
173	クロイツフェルト・ヤコブ病	http://www.aabb.org/Pressroom/In_the_News/new7-1.htm	AABBドナー履歴専門調査会はFDAがまもなく血液および血液製剤のドナースクリーニングに用いるドナー履歴質問表および付随する資料の最終ガイダンスを発表する予定であると見込んでいる。
174	クロイツフェルト・ヤコブ病	http://www.alertnet.org/thenews/newsdesk/L21710368.htm	2005年4月21日オランダで初の「狂牛病」ヒト患者が報告されたが、オランダ産牛肉を摂食することは安全であると発表された。
175	クロイツフェルト・ヤコブ病	http://www.tga.gov.au/docs/html/tsepolicy.htm	医薬品および医療用具を介した伝染性海綿状脳症(TSE)リスク低減へのTGAの取り組み(新製品の申請には動物およびヒト由来製品においてはBSEの発生していない国の原料を使用すること、これが不可能な場合には材料のTSEの安全性の評価を行うことなど)、医療用製品におけるTSEリスク低減の要件の追補。
176	クロイツフェルト・ヤコブ病	International Journal of Epidemiology 2005;34:46-52	フランスはvCJD症例数が世界で2番目に高い国であり、英国から輸入した牛肉によるBSEの曝露がその主な原因と考えられる。フランスにおける将来のvCJD発症数を、感染性のある牛肉製品の接種量や1980~1995年に英国に滞在した期間などのシミュレーションから予測した。シミュレーション結果から将来のvCJD発症数は33症例と予測された。英国での滞在期間はvCJD発症数に影響を及ぼさなかった。
177	クロイツフェルト・ヤコブ病	Irish Blood Transfusion Service 2004年10月31日	アイルランド輸血サービスはvCJD伝播リスク低減のため、英国潜在歴や手術歴等に新たな供血制限を発表した。
178	クロイツフェルト・ヤコブ病	J of Genetal Virology 2005;86:1571-9	TSEの感染因子を運ぶ血液成分を特定することを目的にヒツジの血液細胞成分におけるPrPcの分布を検討した。
179	クロイツフェルト・ヤコブ病	KATHIMERINI.オンライン版 English Version 2005年1月19日	2004年前半に、ギリシャ国内のヤギ12頭が、脳変性疾患であるスクレーピーに罹患したと確認された。この他8頭がキプロスで、26頭がフランスで確認された。これは2005年1月18日に公開されたEU統計により判明した。
180	クロイツフェルト・ヤコブ病	Medical News Today 2005年2月9日	Pall社は新たな異常プリオン除去技術に関する最新の科学データを発表した。今春ヨーロッパで市販される予定のLeukotrap Affinity Prion Reduction Filter(白血球吸着親和性プリオン除去フィルター)は、最も汎用される輸血用成分である赤血球から感染性異常プリオンを除去する。
181	クロイツフェルト・ヤコブ病	Neurol Sci 2004;25:122-9	新変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)とウシ海綿状脳症(BSE)との関連性に関する総説。vCJDの伝播経路として一般的に捉えられているBSE感染ウシの中枢神経系組織が混入した組織の経口摂取についてさらなる研究の必要性を提示している。

番号	感染症	出典	概要
182	クロイツフェルト・ヤコブ病	NOIDS Weekly Report2005年4月22日	2000年8月から2004年8月31日までのCJD手術インシデント報告数は183件で、47%が散発的なCJD初発症例、28%が変異型CJD初発症例、19%がその他の型のCJDとCJDのリスクにある症例で、報告の7%はCJDが疑われたが最終的には初発症例の診断からは除外された。
183	クロイツフェルト・ヤコブ病	PNAS,102(9),3501/2005	CDI法はプロテアーゼ処理の必要が無い測定法であるために、プロテアーゼ抵抗性プリオン蛋白質 (rPrPsc) もプロテアーゼ感受性プリオン蛋白質 (sPrPsc) も両方の異常プリオン蛋白質 (PrPsc) を測定できる唯一のイムノアッセイ法である。大多数のイムノアッセイ法では、孤発性CJD (sCJD) 患者の脳の灰白質及び白質の両方で全PrPscの90%あまりを占めるsPrPscが正常プリオン蛋白質 (PrPc) を除去するためのプロテアーゼ処理中に消化されてしまうことにより、PrPsc量を過小評価することになることが明らかになった。
184	クロイツフェルト・ヤコブ病	Pro Med 2005/1/11	狂牛病のヒト感染型 (vCJD) に罹患した男性が、合法的に実験的医学治療を受けることが認められた。治験薬のポリ硫酸ペントサンの使用許可を裁判所に申請。治療法がない患者とはみなされなくなった。
185	クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed、2005年2月7日	英国で将来変異型ヤコブ病による多数の死亡患者が発生する可能性は低いと発表された。異常プリオンは感染動物の脳と神経系にのみ障害を起こすと考えられてきたが、病因となるタンパクがマウスを用いた実験に基づいて、他の臓器にも分布しうることが発表された。血液製剤・輸血による変異型クロイツフェルト・ヤコブ病暴露の危険性が、FDAの伝染性海綿状脳症諮問委員会の主要な議題であった。感染の危険性を減じる新技術を期待する同委員会の提案に、Pall社がその新たな異常プリオン除去技術に関する最新の科学データを発表した。
186	クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed、2005年4月22日	最近vCJDが診断された患者は、オランダにおいて初めて確認された症例である。政府関係者は他のヨーロッパ当局に対し、患者は献血もしくは組織提供を行っておらず輸血または組織の移植も受けていないこと、この症例が他者に感染を起こす、もしくは他者から感染したとは考えられないと述べた。患者がさらに疾患を伝播した可能性があるか決定するため調査中。
187	クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed、2005年4月4日	United Press International (UPI) 社は、1971年に死亡したフランス人女性の脳が変異型クロイツフェルト・ヤコブ病に合致した病理所見を示しており、脳標本を再検査しているとの情報を入手。もしこの発見が確定されれば、従来考えられていたよりも20年も早くヒトに感染していたことになる。
188	クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed、2005年5月5日	オランダで「狂牛病」のヒト変異型であるvCJDと最近診断された26才女性が5月3日に死亡し、この神経疾患によるオランダ初の犠牲者になったとこの女性が入院していた病院当局が公表。フランスで新たに2名のvCJD患者が発見され、同国における患者総数は11名になったと保健当局が述べた。この患者らに献血歴は無し。
189	クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed、2005年6月11日	ポルトガルのDGS(Portuguese Main Directorate of Medical Services)は、変異型クロイツフェルト・ヤコブ病が疑われる青年男性患者1名の存在を発表した。ポルトガルは初のvCJD疑い患者を発表し、フランスは13例名の患者を確認した。
190	クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed、2005年6月6日	ヨークシャー州のvCJD患者集団発生での4名中の一人であった18歳の少年が1997年3月にvCJDで死亡した。この少年は登録された献血ドナーである事実が隠されていて、供血を受けた7人が追跡された。
191	クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed、2005年7月	ポルトガル保健監督局総長は最近、検査室診断結果(扁桃生検)で判明したポルトガルにおける最初のvCJD可能性患者を報告した。12才男子であり、専門家による医学的治療を受けている。イギリスへの渡航歴は無い。
192	クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMed.2004年12月6日	輸血用血液の安全性確保に関して懸念が高まっているが、英国国立血液サービス(English National Blood Service)の国立輸血微生物学研究所によれば、vCJDの病因である感染性の異常プリオンが、輸血によって伝播される可能性を示唆する証拠が増えている。London大学の研究チームによる、ヒトプリオン蛋白発現トランスジェニックマウスへの異常プリオン感染実験の結果、すべてのヒトがBSEの異常プリオンに感受性があると判明。

番号	感染症	出典	概要
193	クロイツフェルト・ヤコブ病	The Lancet 2005 ;365(9461):781-3	BSEが霊長類に経口伝播した場合に変異型クロイツフェルト・ヤコブ病として発症する可能性を検討した実験。使用した2頭のマカクザルのうち1頭は、BSE感染ウシ由来の脳ホモジェネートの経口摂取により神経症状を発症したが、もう1頭は無症状であった。
194	クロイツフェルト・ヤコブ病	Transfusion 2005;45(4):504-13	非常に高感度なDELFLIA及びフローサイトメトリーを用いてvCJD患者の血液中のPrP発現について。
195	クロイツフェルト・ヤコブ病	Transmissible Spongiform Encephalopathies Advisory Committee 16th Meeting Oct 14.2004	FDAと伝染性海綿状脳症諮問委員会(TESEAC)との会合内容の要約。これまでの勧告の経緯と現行のFDAが定めるvCJD伝播リスク軽減措置の追加または改定措置の必要性に関する問い合わせ内容。
196	クロイツフェルト・ヤコブ病	カナダ公衆健康局2005年1月11日	2005年1月11日、カナダ食品検査局(CFIA)はカナダのウシにおける3症例目の牛海綿状脳症(BSE)を確定した。vCJDのQ&Aも記載。
197	クロイツフェルト・ヤコブ病	英国保健省Publications and statistics,2005/0231、2005年7月1日	クロイツフェルト・ヤコブ病月間統計(2005年7月1日現在):2005年7月1日現在の2005年のCJD診断確定例および可能性例の総死亡例数-24(散发例19, 医源性1, 家族性1, GSS(Gerstmann-Straussler-Scheinker syndrome)1, vCJD2)
198	クロイツフェルト・ヤコブ病	共同通信 2005年5月30日	献血時のvCJD対策については、H17年5月30日の薬事食品衛生審議会血液事業部会運営委員会の結論をふまえ、予防的観点から英国に滞在1日以上(1980~96年)の者の献血禁止措置を6月1日から開始することを決めた。
199	クロイツフェルト・ヤコブ病	HPS Weekly Report, Vol.39 (2005/11)68(2005)	2005年3月4日までの英国におけるクロイツフェルト・ヤコブ病確定およびその疑い症例の調査データ。2005年になってから2005年3月4日まで18例について調査し、死亡例-散发例:5例, GSS(Gerstmann-Straussler-Scheinker syndrome):1例, vCJD確定例:1例, 生存のvCJD可能性例-5例。vCJD確定例死亡総数(1995年~2005年3月4日)-149例
200	コロナウイルス感染	Vox Sanguinis 2004;87:302-3	重症急性呼吸器症候群(SARS)の病原体SARSコロナウイルスの熱不活化に関する研究報告。原料血漿中に存在するSARSコロナウイルスによる感染リスクは、60°C10分間の熱処理工程により極めて低くすることが可能であることを示唆している。
201	コロナウイルス感染	European Respiratory Journal 2005;25(1):12-14	SARS-CoVのRT-PCRの陽性反応がウイルス学的にSARSと確定された45名の患者について
202	コロナウイルス感染	J of Infectious Diseases 2005; 191(4):492-8	NewHavenコロナウイルス(HCoV-NH)という新規のヒトコロナウイルスが遺伝子配列分析によってオランダで最近報告された新規HCoVと密接に関連していることが明らかになった。
203	コロナウイルス感染	J of Infectious Diseases 2005;191(4):499-502	New Haven コロナウイルス(HCoV-NH)という新規のヒトコロナウイルスが典型的な川崎病の6ヶ月令の小児の呼吸器分泌液に存在していた。
204	サルパルポウイルス	J of Infectious Diseases 2004;190(11):1900-7	サルのパルポウイルス病が潜在的な人畜共通の伝染病と認識することに関する研究。
205	サルモネラ症	ProMED情報(詳細) 2005.5.17	2004年ミネソタ州保健局公衆衛生研究所は、ミネソタ州のペット卸売り業者が保有する病気のハムスターからサルモネラ(Salmonella enterica 血清型 Typhimurium)が分離されたことを米国厚生省疾病管理・予防センター(CDC)に報告した。
206	サルモネラ症	感染症学雑誌 2004;78(11):989-90	日本においても多剤耐性Salmonella Newportが存在していることが確認された。
207	デング熱	CDC/MMWR54(22); 556-558Jun. 10, 2005	77例の急性デング感染症と検査確定されたうち8例が1次感染、12例が2次感染と診断された。
208	デング熱	Nephrol Dial Transplantation (2005)20:447-8	デング熱の既往のあるドナーから、生体腎移植を受けたレシピエントが、腎移植後5日目に発熱を初発症状とする劇症のデング熱を発現したとの報告。

番号	感染症	出典	概要
209	デング熱	ProMED 20050210-0020 Feb. 8, 2005	マレーシア当局は、クアラルンプールの2005年1月最終週のデング熱患者数が336名に増加と報告。一方シンガポール当局は、2004年全体でデング患者9459名を記録した。
210	デング熱	ProMED:20050516-0070 2005/5/12	2005年これまでに12名が死亡しており、昨年の死亡総数の約2倍にあると保健当局が2005年5月12日公表した。
211	デング熱	ProMED:20050520-0070 2005/5/18	North Cotabato州でデング熱患者の急増が見られた。
212	デング熱	ProMED:20050530-0010 2005/5/21	タイにおける死亡患者総数は16名に増加した。またブーケット島において、2004年以降デング熱患者が2倍に増加したことが判明した。
213	デング熱	ProMED:20050613-0010 Jun. 6, 2005	フィリピン保健省は、2005年のデング熱の患者数は3倍に増加したと報告した。ベトナムの地方保健当局は、死亡患者3名を含む6,700名のデング熱患者を報告している。
214	デング熱	ProMED:20050617-0050 Jun. 15, 2005	コスタリカで、デング熱患者が急増している、とコスタリカの保健当局が警告した。今年の初めから4400名以上の患者が報告され、2004年の51%増である。
215	デング熱	ProMED:20050624-0030 Jun. 22, 2005	エルサルバドルでは、デング熱患者数は1278名に増加した。イエメンShabwa地域では、デング熱患者数が増加している。
216	デング熱	ProMed20041102-0010(China Economic Information Service)	中国東部の省で発生しデング熱流行は制圧された。
217	デング熱	ProMed20041119-0050(新華通信)	今月(2004年11月)51歳女性がデング熱に罹患したことが発見され、今年(2004年)マカオにおける2例目のデング熱患者となった。
218	デング熱	ProMED20050106-0030 Jan. 12, 2005	2004年の最初の9ヵ月間で、8237名がデング熱に、360名がデング出血熱に罹患した。
219	デング熱	ProMED20050118-0030 Jan. 14, 2005	同国保健相は、2004年12月には、デング熱患者週平均数が450名から約1000名へと倍増したと発表した。
220	デング熱	ProMed20050424-0010(香港 News4月21日)	香港保健保護局は31才男性のデング熱輸入患者を確定し、今年の患者総数は5名となり、全例が輸入患者である。
221	トキソプラズマ	Veterinary Parasitology 2004;123:265-70	1992-2003年の間にスペインの5つの地域から集めた野性ウサギの血清を調べた報告。野兎のT gondiiの感染保有率に影響する要因として地域性がある。
222	鳥インフルエンザウイルス	Emerging Infectious Diseases 2004;10(12):2156-60	米国においてブタから七面鳥へのH3N2インフルエンザウイルスの異種間伝播が確認された。
223	鳥インフルエンザウイルス	Emerging Infectious Diseases 2004;10(12):2196-9	ヒトへのH7N3型トリインフルエンザ感染として初の事例。
224	鳥インフルエンザウイルス	OIE 2005年5月27日号Vol.18 No.21	インドネシアBanten州の2つの村で、ブタにおける高病原性鳥インフルエンザウイルスタイプH5N1感染のアウトブレイクが報告された。
225	鳥インフルエンザウイルス	Proceedings of National Academy of Science 2004;101(5):1356-61	高病原性鳥インフルエンザA(H7N7)型ウイルスがヒト-ヒト感染した可能性を示唆する事例
226	鳥インフルエンザウイルス	Public Health Agency of Canada released 2005年1月14日	ベトナムにおけるトリインフルエンザ(H5N1)のアジア各国でのアウトブレイク発生に対する嚴重な注意喚起。
227	鳥インフルエンザウイルス	RIVM rapport 630940003. Bilthoven: RIVM	2003年、オランダのH7N7鳥インフルエンザアウトブレイクコントロール期間内のリスクファクター、健康、福祉、ヘルスケアニーズと予防措置に関する調査結果。調査対象となった養鶏場従業員関係者の約千人が鳥インフルエンザに感染していた。
228	鳥インフルエンザウイルス	The New England Journal of Medicine 2005;352(4):333-40	鳥インフルエンザA(H5N1)ウイルスによるヒト-ヒト感染の可能性が強くと示唆された事例。

番号	感染症	出典	概要
229	鳥インフルエンザウイルス	The New England Journal of Medicine 2005;352(7):686-91	H5N1インフルエンザの臨床スペクトルに属する疾患について、これまで考えられていた範囲よりも、より広い範囲にわたるものであることが示唆された事例。
230	鳥インフルエンザウイルス	The New England Journal of Medicine 2005;352(4):686-91	呼吸器症状を示さず、脳炎と消化器症状を呈する高病原性トリインフルエンザA(H5N1型)の症例が報告された。
231	鳥インフルエンザウイルス	Virus Research 2004;103(1-2):67-73	ヒトのインフルエンザの宿主として、アメリカにおけるブタの重要性について。
232	鳥インフルエンザウイルス	WHO/CSR 2004年9月28日	ヒトからヒトへのトリインフルエンザ(H5N1)感染の可能性について。
233	鳥インフルエンザウイルス	WHO/CSR 2005年2月2日	カンボジアではじめての鳥インフルエンザA/H5の感染例。
234	鳥インフルエンザウイルス	WHO/CSR 2005年5月	2005年1月～4月のベトナム北部におけるヒトの高病原性インフルエンザA(H5N1)ウイルスが感染症の疫学パターンが2004年のアジアの他の地域及び同時期のベトナム南部の事例と比べて変化している。
235	鳥インフルエンザウイルス	WHO/CSR, Influenza 2004年8月20日	中国の複数の地域の農場においてブタが、高病原性鳥インフルエンザウイルスH5N1株に感染していることが示された。
236	鳥インフルエンザウイルス	WHO/CSR, Influenza 2005年12月30日	高病原性鳥インフルエンザによる感染がベトナムで拡大している。
237	鳥インフルエンザウイルス	共同通信 2005年6月26日	日本で初めて鶏への高病原性トリインフルエンザH5N2型感染が確認された。
238	鳥インフルエンザウイルス	食品衛生研究2004;54(7):21-4	鶏卵(卵黄)中の鳥インフルエンザウイルスの熱抵抗性に関する基礎研究
239	鳥インフルエンザウイルス	ProMED情報(詳細) 2005.5.23	2005年4月末近くにカリマンタン島East Kalimantan州Samarinda地域Sidomulyaにおいて最近30羽のニワトリが死亡しているのが発見された。Java島東部の大学研究者がSurabayaのブタ1頭の咽頭拭い液と血液検体からRT-PCR法でH5N1型ウイルスを検出した。不活化された単離RNAは遺伝子配列が解析され、その結果このウイルスは高病原性を有し、家禽から分離された鳥インフルエンザウイルスと相同であった。
240	鳥インフルエンザウイルス	ProMED情報(詳細) 2005.5.23	インドネシアの研究者らがジャワ島のブタからトリインフルエンザ株を発見し、このウイルスがより容易にヒトに感染伝播する可能性の懸念が高まったと政府と科学者らが2005年5月14日述べた。検査したブタ20頭中10頭からH5N1型が発見された。これらのブタは2004年鳥インフルエンザ流行の発生したJava島の養鶏場から100ヤードの距離で飼育されていたが、なんら臨床症状を発症していなかった。
241	鳥インフルエンザウイルス	ProMED情報(詳細) 2005.6.6	Banten州Tangerangにおいて調査3件が実施され、合計187検体が採取された。第1回目の調査が2005年2月23日にLegokのBabat村で実施され、鼻腔拭い液10件中5件が鳥インフルエンザ陽性、血清型はH5N1と同定された。第2回目の調査は2005年4月14日にPanonganのRancaiyuh村で実施され、5か月齢以上のブタ31頭から採取された鼻腔拭い液10件中6件がH5N1型鳥インフルエンザ陽性であった。
242	トリパノソーマ症	IASR 2005;26(5):124-5	2004年以降インドでヒトのトリパノソーマ症が発見された。
243	トリパノソーマ症	ProMed2050402-0020(O Folha online)	ブラジルでサトウキビジュース摂取が原因とみられるトリパノソーマ集団感染発生した。
244	トリパノソーマ症	The Weekly Epidemiological Record 2005;80(7):61-4	インドにおける新型のヒトでのトリパノソーマ症の報告
245	トリロタウイルス	第52回日本ウイルス学会学術 集会 (2004/11/21-23)	トリロタウイルスが人獣共通感染症の病原体である可能性を示した研究。
246	ニパウイルス	Emerging Infectious Diseases 2004;10(12):2082-7	バングラディッシュでのニパウイルス感染の調査結果。(ヒトが病気の牛に接触して感染した事例)

番号	感染症	出典	概要
247	ニパウイルス	Emerging Infectious Diseases 2004;10(12):2228-30	1998年のマレーシアで集団発生したブタからこれまで報告されていなかった株を含むニパウイルスが分離され分子解析された。
248	ニパウイルス	Health and Science Bulletin,2(2),2004	2004年2月19日～4月16日にバングラデシュFaridpur地区の住民36人がニパウイルスに感染し、27人が死亡した。患者23人の血清中にニパウイルスのIgM抗体が確認され、患者数名の喉拭き取りサンプルからニパウイルスRNAが検出された。濃厚接触のあったこれらの患者の家族間などに飛沫感染によると思われるヒトからヒトへのニパウイルス感染拡大が見られた。
249	ニパウイルス	ProMed20041123-0030(The Independent Bangladesh) Indendependent,Bangladesh、11月21日	ニパウイルス感染患者からのヒト-ヒト感染が疑われる死亡症例が報告された。
250	ニパウイルス	ProMed20050130-0010(New Straits Times 1月29日)	Malacca州の農場で発生した120頭以上のブタ大量死原因はニパウイルスや豚コレラではなかった。
251	ニパウイルス	The Independent 21 Nov 2004	ニパウイルスがヒトからヒトへ伝播されるという見方を裏付ける症例。
252	バルボウイルス	Transfusion 2005;45(6):1011-19	血液製剤によるヒトバルボウイルスB19の潜在的感染に対し製造業者はハイタイターのミニプールの核酸及び免疫学的スクリーニングを導入している。今回の報告段階で導入していれば感染が引き起こされなかった可能性がある。
253	ハンタウイルス	CDC 2004年9月14日	保有宿主(シカネズミなど)、伝播方法(米国においてHPSは飛沫感染、ヒトからヒトへは伝播しない)およびハンタウイルス性肺症候群に関するQ&A
254	ハンタウイルス	Microbiology and Immunology 2004;48(11):843	2000年～2003年の日本各地におけるげっ歯類のハンタウイルス感染についての疫学調査結果。
255	ブドウ球菌感染	CDC/MMWR 2005;54(07):168-70	血小板輸血による致命的敗血症を起こした事例。パルスフィールドゲル電気泳動法では区別がつかなかった。
256	ブルセラ症	ProMed20041225-0010(厚生労働省検疫所 海外感染症情報2004年12月25日掲)	2004年10月下旬に中国保健保護局ではブルセラ症患者を検査により確定していた。
257	ブルセラ症	Veterinary Microbiology 2004;103:47-53	ナイジェリアの家畜におけるブルセラ感染の予備的観察の提示。
258	ペスト	ProMed20041102-0020(厚生労働省検疫所感染症情報2004年11月2日)	死亡患者を出した青海省でのペスト流行は制圧された。農村部の住民8名が死亡した中国北西部でのペスト流行は、制圧されたと報告されている。患者の大部分が、野生のマーモットを殺傷したり、食べてペストに罹患した農夫や牧夫であった。
259	マールブルグ病	CDC 2005年4月20日	CDCが発表したマールブルグ病に関する渡航者向けのガイダンス。
260	マールブルグ病	CDC/MMWR 2005;54(Dispatch):1-2	2005年3月23日、WHOはアンゴラ北部でアウトブレイクしたウイルス性出血熱の病原因子としてマールブルグウイルスを確定した。
261	マールブルグ病	WHO/CSR 2005年4月21日	2005年4月19日現在、アンゴラ保健省はマールブルグ出血熱症例266例を報告。うち239例は死亡。
262	マラリア	ABC newsletter 2004年12月3日	米国疾病管理予防センターは、ドミニカ共和国のアルタグラシア州およびデュアルテ州を訪れた旅行者2名のマラリア感染報告を受け、旅行者に対する予防措置の勧告内容を拡大する。
263	マラリア	CDC 2005年1月12日	国疾病対策予防センター(CDC)は、2004年12月26日に発生した大地震および津波の被災地域に居住する米国人に現在の健康上、安全上のリスクに関する情報を通知し、これらのリスクを最小限とするために講じる措置についてのガイダンスを提供する。
264	マラリア	CDC/MMWR54(15); 383-384Apr. 22, 2005	グアテマラ共和国から米国に移住した母親から生まれた生後7週間の新生児(男)における先天性マラリアの症例報告。

番号	感染症	出典	概要
265	マラリア	CDC/MMWR54(SS02); 25-39Jun. 3, 2005	米国で感染したマラリア症例10例のうち1例が輸血関連と考えられる。
266	マラリア	ProMed20050325-0070(Daily Times 3月24日)	パキスタンのカラチ市でマラリア感染が広がっている。
267	マラリア	Vox Sanguinis 2005 ;88(3):200-1	現在のドナー選択がイドライン基準を満たし、また8年間以上英国を出国していないガーナからの供血者による輸血マラリア感染
268	レトロウイルス	Blood Products Advisory Committee 2004年10月21-22日	サル泡沫状ウイルス(SFV)および非ヒト霊長類の保有するウイルスがヒトに伝播するリスクについて、FDAから血液製剤諮問委員会(BPAC)への問い合わせ内容。
269	レプトスピラ症	ProMed20040929-0080(News-Medical.net)	2004年8月、香港で新たに2名のレプトスピラ症患者確認。
270	寄生虫感染	Acta Tropica (ACTA TROP.) (Netherlands) 2004;92(3):231-6	メキシコで初めて、牛由来のエキノコックス症に感染した患者が報告された。
271	狂犬病	1.ProMed20041026-0040(Regnum allnews)	ロシアで狂犬病が野生動物間で感染拡大し、感染した子犬から受傷した子ウシが発病した。
272	狂犬病	AABB WeeklyReportVol. 11, No. 10 Mar. 25, 2005	患者が臓器を移植されたレシピエント3名は狂犬病に関連した症状を診断され死亡し、肺を移植されたレシピエント1名も手術中に死亡した。
273	狂犬病	CDR WEEKLYVol. 15, No. 9Mar. 3, 2005	ドイツの臓器移植財団は、2004年12月下旬に死亡したドナーから臓器を移植された患者6例中3例が狂犬病の可能性例であることを公表した。
274	狂犬病	ProMed20050311-0724(sourcc correio Braziliense 9 Mar 2005)	2005年1月～2月の期間にブラジルのブラジリア連邦のFederal区域において7頭のウマおよびウシで狂犬病が診断された。この数字は2004年における狂犬病事例総数の半分に達する。
275	結核	ProMed20050208-0070(ネブラスカ州農業局)	最近ネブラスカ州で発見された牛結核(TB)症例(屠殺時陽性確認)の調査に積極的な取り組み。
276	原虫、肺炎、レプトスピラ症	Veterinary Record (VET. REC.) (United Kingdom) 28 AUG 2004, 155/9(255-258)	<ul style="list-style-type: none"> ・コクシジウム症の大きな増加が確認された ・子牛に肺炎(細菌性、RSウイルス及びパラインフルエンザ3型)の発症の増加が確認された ・幼牛にLeptospira Hardjoの発症の増加が確認された
277	原虫感染、サルモネラ	Veterinary Record (VET. REC.) (United Kingdom) 02 OCT 2004, 155/14 (409-412)	<ul style="list-style-type: none"> ・8月にNeospora caninumの深刻な流行の発生が報告された ・サルモネラ症例の急増が報告された
278	口蹄疫	ProMed20041203-0010(Xinhua12月1日)	ウガンダでウシ2000頭以上が口蹄疫で死亡したという報告
279	口蹄疫	1.ProMed20050123-0080(PNA) 2.YahooNews Aus&NZ Jan20 2005	9年ぶりにフィリピンでブタにおける口蹄疫が根絶された。
280	口蹄疫	1.ProMed20050208-0120(Pakistan Link) 2.Pakistan Link, 7 Feb 2005	Lakki地域で口蹄疫によりウシ数百頭が死亡したという報告。
281	細菌感染	AABB Weekly Report 2004; 10(32)	86才女性が、稀な種類の細菌が含まれた赤血球の輸血を受けた後に死亡した。
282	細菌感染	Infectious Diseases Weekly Report Japan2005年第8週	44頭のカキザルが輸入され、うち4頭から細菌性赤痢菌が検出された。
283	心筋炎	Epidemiological Record 2005;80(12):101-12	スリランカで原因不明の心筋症発生について。

番号	感染症	出典	概要
284	人畜共通感染症	CDC/MMWR 2005;53(51 & 52)1198-1202	2003年、米国において鼠咬熱による2例の死亡例が発生した。1例は52歳女性のペットショップ店員で、救急外来受診の4日前に店のラットに人差し指を咬まれ、ICU入院から12時間後に死亡した。2例目は、9匹のラットを飼っている19歳女性で、ラットに咬まれたかどうかは不明であるが、病院に搬送されたときにすでに死亡していた
285	人畜共通感染症	QJ Med 2005;98:255-74	ヒトの精神神経疾患におけるBVD感染との関連性について。
286	人畜共通感染症	Veterinary Microbiology 2004;104:113-7	ブタTTVはブタの臓器や細胞の異種移植によりヒトへ感染する。ブタTTVはブタでは非病原性であるが、免疫抑制異種移植レシピアントで病原性になる可能性がある。したがって異種移植のブタドナーをスクリーニングすることが重要である。
287	髄膜炎感染	CDC/MMWR 2005;54(21):537-9	臓器移植によるリンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス感染に関する事例。
288	髄膜炎感染	CDC/MMWR 2005;54(Dispatch):1-2	米国でリンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス感染により臓器移植患者3名が死亡。ドナーはペットのハムスターから感染した可能性がある。
289	髄膜炎感染	Infectious Diseases Weekly Report Japan2004年第46週	細菌性髄膜炎の報告数が過去最高に達したとの報告。
290	髄膜炎感染	ProMed20050202-0010(厚生労働省検疫所海外感染症情報2005年2月2日)	中国安徽省当局副責任者は2005年1月29日に、髄膜炎菌性髄膜炎の深刻な流行が省内の少なくとも5郡/市で発生していると発表した。この感染症は、省内の別の地区にも拡大しているようである。
291	髄膜炎感染	ProMed20050525-0020(Associated Press)	米国でリンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス感染により臓器移植患者3名が死亡。ドナーはペットのハムスターから感染した可能性がある。
292	髄膜炎感染	WHO /CSR 2005年1月11日	フィリピン保健省が、髄膜炎菌様疾患による患者33名の内、19名が死亡した(致死率58%)
293	大腸菌性胃腸炎	J of Food Protection 2004;67(10):2274-6	ブタが病原性大腸菌O157:H7の潜在的な保有者とされた調査結果。
294	大腸菌性胃腸炎	日本小児学会雑誌2005;109(1):54-7	VT2産性の腸管出血性大腸菌O177:HNMIによる溶血性尿毒症症候群(HUS)の1例
295	炭疽	1.ProMed20041105-0060(OIE) 2.OIE Disease Information 5Nov2004Vol17	フィンランドで発生したウシの炭疽の報告である。
296	炭疽	1.ProMed20041113-0080(国際SOS公衆衛生部)	インドネシアで炭疽に感染したウシの肉を摂取し、ヒトに感染したという報告である
297	炭疽	1.ProMed20050112-0080(Russian news agency) 2.ProMed20050205-0050(Radio Kurs 2月4日)	ロシアKursk地区でのウシ炭疽症例の報告
298	炭疽	1.ProMed20050116-0080(OIE) 2.OIE,DiseaseInformation2005;18(2)	ペルーでウシの炭疽が発生し11頭が死亡したという報告。
299	炭疽	1.ProMed20050120-0100(The Herald/All Africa Global Media1月13日) 2.ProMd20050127-0100(All Africa)	Mosvingo地域で炭疽患者70名以上が発生し死亡例もでている。炭疽に感染したウシからの食肉の疑いが出ている。
300	炭疽	1.ProMed20050120-0120(南アフリカ国立感染症研究所) 2.IOL/SAPA http://www.iol.co.za	南アフリカで死亡したウシの肉を食べてヒトに炭疽が感染したとの報告。
301	炭疽	Canadian veterinary journal 2004;45(6):516-7	2004年1月中旬に牛の突然死が170頭に発生した。その後も突然死が続いた。開業医と州及び国の研究機関で連携し、調査した結果、炭疽菌によるものであることが判明した。

番号	感染症	出典	概要
302	炭疽	ProMed20041105-0060(OIE)	フィンランドでの炭疽。動物の異常の初検知日:2004年10月5日。事例発生地:フィンランド南部。流行中の動物個体数:ウシ39頭。症例数/死亡症例数:2頭。感染源:汚染された飼料。感染対策:隔離および国内での移動管理。
303	炭疽	ProMed20050120-0110、 20050127-0100(The Herald/All Africa)	ジンバブエで炭疽流行により130名が報告され、3名死亡。ウシ、ヤギ80頭以上が死亡。
304	炭疽	ProMed20050120-0120(ILO)	南アフリカでウシからの感染が疑われる皮膚炭疽患者3名が発生
305	炭疽	ProMed20050519-0040(アフリ カ全土動物資源局)	ギニアで炭疽感染による入院患者13名、死亡4名を含む80名のヒト感染及びウシ126頭の死亡が確認された。
306	炭疽	ProMed20050614- 0020(Newindpress)	インドで約15名が炭疽に感染した。3名が死亡。
307	炭疽	ProMed20050615-0050(All Africa)	ジンバブエでウシから感染が疑われる炭疽流行が再発生した。5名のヒト患者、1名死亡。
308	伝染性紅斑	British Journal of Haematology 2004;128: 401- 4	静注用免疫グロブリン製剤の製造工程におけるヒトパルボウイルスB19の液状加熱処理による不活化に関する実験。同ウイルスはこの加熱処理により迅速に不活化されることが示された。
309	伝染性紅斑	Electrophoresis 2005;26:28- 34.	血漿分画製剤の製造工程に応用し得る新規のウイルス除去技術の紹介。イヌパルボウイルス(CVP)を用いた実験においてウイルス力価が10000分の1に減少し、かつ分離後の血漿蛋白の純度および機能、収率は低下しないことが示された。
310	野兎病	CDC/MMWR 2005;54(07):170-3	2001-2004年の間にワイオミング州でヒトでの野兎病感染症例報告が増加した。